

開催趣旨

日本と朝鮮半島は氷河期の世紀では陸続きで、人類の曙の時代は同根同族として苦楽を共にしてきました。しかし、地球の地殻変動と共に地形は海を隔てて分離し始め、朝鮮半島・日本列島とに独立の社会構成体を形成するようになりました。

やがて、日本列島に渡来人が住みつき、文化、文明が形成されていきました。古代の東アジアは、現代のような明確な国家はなく、中国大陸・朝鮮半島・日本列島には、一大国際体制の分業的なネットワークができあがり、相互依存体制が形成されていました。

高度な技術と文化を持つ、渡来人らが日本列島に住みつき、文化文明の伝授が行われ、6、7世紀の飛鳥を起点とする日本国家形成につながり、埼玉県日高市周辺では高麗人を中心とする高句麗渡来史は1300年を迎えています。古代の人類は多少の葛藤、対立はあっても平和共存という体制は維持されてきたと類推されます。

ところが、現代は科学技術の進化に伴い、人類は第1次、第2次世界大戦が勃発し、何千万の命がなくなっています。この地球上に核兵器という武器が米、露の大国を中心に横行しています。現在、北朝鮮の核開発制裁論が国際間で論議されていますが、制裁だけでは大国中心による核兵器体制の根本的解決にはなりません。

当シンポジウムでは、東アジアの平和構築をするにはどうしたらいいのか、日本、韓国・朝鮮、中国の平和友好の道を探っていきたいと思います。万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。

「東アジア平和友好シンポジウム」実行委員会